

4 探究のプロセス

こんな実践

本物との出会い、調査取材活動、思考ツールの活用、表現をする場といった探究のプロセスにおける各過程を子供たちが経験しながら、問題解決的な学習が発展的に繰り返されていった事例。

実践学校 F小学校

実践学年 5学年

実践時期 5月～3月

単元・題材名 「わたしたち T地区洪水調査隊」

(1)【課題の設定】 ～個々が抱いた問いを大切にする単元の立ち上げ～

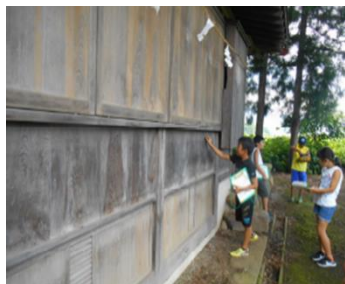
子供たちは、地域の宝を探す活動中で、学校近くに祭られているお地蔵様の存在を知りました。1742年にこの地を襲った「戌の満水」と呼ばれる、数千人もの犠牲者を供養するためのものです。この事実と出会った子供たちは、「江戸時代?」「今までどれくらいの洪水があったのだろう」という問いを見いだしました。



子供たちは早速、インターネットや図書館の本を使って調べ始めましたが、なかなか欲しい情報が集まらず、洪水がどのようなものであったかイメージを膨らめていくことができませんでした。そこで担任のI先生は、河川事務所の方を外部講師として招き、近年で一番被害が大きかった昭和58年の洪水の様子を現地で聞く場を設けました。現地で子供たちは、知らなかった事実を発見したり、専門家の真剣な取組や語り口に共感したりして、自分にとって一層意味や価値のある課題を見いだしていきました。

(2)【情報の収集】 ～自らの足で取材を重ね生の情報を集める～

子供たちは、現地調査に加え、地元の方から話を聞いたり地区を歩いて当時の水没の痕跡や水深を示すパネルなどを調査したりと、それぞれの課題意識に沿って、情報を収集していきました。



その中で、昭和58年洪水の被害の大きさや状況を感じ取り「もっとたくさんの人に、その時の様子や気持ちを聞いてみたい」という思いを強めてきました。そこで、当時消防団員だった方や、養豚場の方など、一人一人が自分の「知りたいこと」に沿ってインタビューする人を決め、聞き取り調査を進めていきました。

**ここがポイント**

- ・ 個の追究を保障することも主体的な学びにつながる大切な支援となります。
- ・ 地域に出て生の情報を集めることで、人の思いに触れることができます。

(3) 【整理・分析】 ～集めた情報を様々な角度からとらえる～

I先生は、調べたことを付箋に書いて黒板に貼り、キーワードを大切にしながら分類をしていきました。一人一人が聞き取り調査をして集めた貴重な情報を学級全体で共有するために話し合いの場を設けました。キーワードを大切にしながら多様な情報を整理・分析していくと、見えてくるものがありました。被害状況や洪水を体験した方々の気持ちなど、「過去」のことをさらに調べていきたいという考えが多い中、一つの異なる視点から洪水を見つめる意見がありました。Sさんの「今、洪水が起こったらどうするか」という視点です。過去を振り返る視点で洪水を見つめる子供が多い中、Sさんは「昔より堤防は高くなっているけど限界がある。早めに避難して命を守る」という、現在・未来という視点で洪水を見つめていたのです。この考えに触れて「Sちゃんすごい！」と思わず声を発した子供がいました。



(4) 【まとめ・表現】～既存の経験や知識と、整理・分析された情報とがつながる～

子供たちは、市の文化交流館で行われた文化シンポジウムで学習の成果を発表しました。個々の伝えたいことをまとめることを通して、「これから洪水のことを知らない人たちに自分たちが学んだことを伝えていきたい。今、洪水が起きれば6mくらいまで水が来る。だから58洪水のような災害が起こったとき、どのように行動すればよいのかを考え地域に伝えていきたい」という新たな課題をもったのです。

**ここがポイント！**

- ・異なる個性、興味関心をもつ子供同士がお互いから学ぶ「協働的な学習」を意識しましょう。
- ・表現する活動を通して、考えが明らかになったり、新たな課題がより一層鮮明になったりします。

まとめ

探究のプロセスは1回ずつ経験して終わりにするのではなく、まとめ・表現する中で新たな課題を見出し、さらに繰り返し探究のプロセスをつなげていくことで、やがて自己の生き方を問い続けることにもつながっていきます。